

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-16 安全で安心 できる社会	20130587026902	●安全で安心 できる社会 II (医療現場の 安全と安心)	和	E	松坂 誠 應	1年,2年,3年,4年	後期	火 4	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-16 安全で安心 できる社会	20130587027301	●安全で安心 できる社会 II (社会科学か らみた安心・ 安全)	和	E	宇都宮 謙	1年,2年,3年,4年	前期	火 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-16 安全で安心 できる社会	20130587027701	●安全で安心 できる社会 II (工学から見 た安全安心(エ ネルギーと資 源))	和	E	金丸 邦 康	1年,2年,3年,4年	後期	火 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-16 安全で安心 できる社会	20130587028101	●安全で安心 できる社会 II (公害環境問 題と社会)	和	E	戸田 清	1年,2年,3年,4年	後期	月 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-16 安全で安心 できる社会	20130587028903	●安全で安心 できる社会 II (破壊事故と ヒューマン ファクタ)	和	E	勝田 順 一	1年,2年,3年,4年	前期	月 3	～

[戻る](#)

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-16 安全で安心できる社会**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587026902	科目番号	05870269
授業科目名	●安全で安心できる社会II(医療現場の安全と安心)		
編集担当教員	松坂 誠應		
授業担当教員名(科目責任者)	松坂 誠應		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松坂 誠應, 浦松 正, 長井 一浩, 梅田 正博		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生(クラス等)	2年生		
担当教員Eメールアドレス	matsu_report@hotmail.com		
担当教員研究室	医学部保健学科3F		
担当教員TEL	095-819-7961		
担当教員オフィスアワー	木曜日午前中		
授業のねらい	医療や介護の現場で起こる諸問題を取り上げ、人間の安心と安全とは何かを学習するとともに、自らの生活の危機管理に生かす。		
授業方法(学習指導法)	各教員(5名)の専門分野で話題になっている事象について講義してもらい、講義の後、科目責任者が授業のファシリテータとして講師に質問したり、あるいは学生に質問を促すことで授業の理解を深める。		
授業到達目標	医療や介護現場における安心安全の内容とその背景を理解する。		
授業内容	<p>医療技術の進歩は人間の死や疾病への不安を和らげたが、その一方で患者取替え事件や薬害事件に端的に見られるように安心を損なう医療現場の問題への対応が重要性を増している。医療現場ではこうした問題にどのような対応がとられているかを考えることを通して、医療における安心とは何かを問うていく。</p> <p>各講師の授業内容を示す。</p> <p>松坂誠應(医学部保健学科教授)：介護と虐待(松坂, 佐々木で6回担当) 急速な高齢化に伴い介護を要する高齢者も急増している。特に認知症の高齢者は、従来の予測を大きく上回り、300万人を超え(厚労省推計2012.8)今後も増加が続くと見込まれている。それに伴い、介護の現場では高齢者に対する虐待も増加している。虐待には身体的なものだけでなく心理的・経済的虐待などがある。在宅介護における虐待の背景には介護者の介護疲れや社会的孤立、介護や病気についての知識不足などもあり、高齢者だけでなく介護者への支援も必要となる。「介護と虐待」というテーマを通して「安心して暮らせる社会」についても学習する。</p> <p>佐々木規子(医学部保健学科助教)：遺伝相談(松坂, 佐々木で6回担当) 近年、急速に進歩する遺伝医療は、診断、治療、健康管理などにおいて幅広く応用され役立てられている。しかしその一方で、未だ存在する遺伝に対する偏見や差別、遺伝情報の特殊性により遺伝の問題はより複雑になる可能性をもっている。遺伝医療の現状を知るとともに、誰にも起こり得る遺伝の問題について考える。</p>		

	<p>浦松 正（大学病院助教）：高度医療と安心安全（3回担当） 透析患者数は年々増加傾向にあり、2011年末には30万人を超えた。透析患者は、1回3～5時間の透析を週3回行う人が多く、この週3回の透析の安全性を担保することが重要となる。透析システム、安全な医療用具の供給、スタッフの訓練などにより安全性を高めている。透析医療において患者の安全に対してどのような対応がとられているかを中心に講義する。</p> <p>長井一浩（大学病院講師）：医療の不確実性（合併症と医療過誤）（3回担当） 医療技術の高度化は自然科学としての医科学の進歩を基盤としているが、実際の診療現場で行われる医療行為は、そういった「サイエンス」のみで成り立つものではなく、多様なリスクを伴わざるを得ない。本講では、医療現場における合併症や医療過誤とそのマネジメントへの取り組みを供覧することを通じて、現代医療の根底に横たわる「不確実性」とそれを取り巻く医療者・患者・社会間の諸相を考察する。</p> <p>梅田正博（歯学部教授）：摂食嚥下と口腔ケア（3回担当） 摂食嚥下は動物が生きるための基本的な行動であるが、加齢や脳血管障害、癌の手術後や放射線治療後など、さまざまな原因で摂食嚥下障害を生じることがある。摂食嚥下障害を生じると栄養摂取上の問題だけではなく、誤嚥性肺炎を生じ生命を脅かすという問題がある。ここでは、医療現場における安全・安心という側面から摂食嚥下を取り上げ、同時に誤嚥性肺炎の予防のために最近一般的になってきた「口腔ケア」についても学ぶ。</p>
キーワード	医療、介護、安心、安全
教科書・教材・参考書	講義時に資料を提供する。 随時、講義のテーマに関するURLや参考文献を提供する。
成績評価の方法・基準等	各講義後に提出するレポート（30%）、講義への貢献（30%）、最終講義時に提示する課題のレポート（40%）で判定する。
受講要件（履修条件）	全学モジュールⅠ「安全で安心できる社会」を受講した学生
本科目の位置づけ	全学モジュールⅠ（安全で安心できる社会）のモジュールⅡ科目
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-16 安全で安心できる社会**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587027301	科目番号	05870273
授業科目名	●安全で安心できる社会II(社会科学からみた安心・安全)		
編集担当教員	宇都宮 譲		
授業担当教員名(科目責任者)	宇都宮 譲		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宇都宮 譲		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	yuzuru@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部東南アジア研究所209室		
担当教員TEL	内線384		
担当教員オフィスアワー	火曜日14時20分から15時まで		
授業のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人類社会における経済活動を取り囲む、さまざまな危機や危険について、全体像を把握できる。 2. 上記に関する、基本的な知識を獲得する。 3. 上記について、見解を得て、かつ他人に明快に伝えることができる。 		
授業方法(学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> *講義：各回に掲げる論題について、抗議する。 *グループ・プロジェクト・プレゼンテーション(GPP)：2名ないしは3名でつくるグループで、標記に関する論題について、指定時間内に発表してもらう。 		
授業到達目標	<p>社会および経済活動に対して影響を与える危機や危険について、</p> <ul style="list-style-type: none"> *相互にどう関連したなにももたらすか、知見を得る。 *構成する諸現象について、主要な概念、データ、および現象を知る。 *諸問題を解決する案について、考察する。 *主要な学説や考察が、正しいかどうか評価する。 *文書やスライドをつかって、危機や危険に関して参加者各位が有する見解を、伝えることができる。 *GPPを通じて、集団で何事か考える際に要求される基本的技術・技能に慣熟する。基本的技能を構成する要素については、別途資料を配布する 		
	回	内容	
	1	はじめに：受講に関する条件を説明する。	
	2	倫理：過剰な消費、反社会的行為が人類社会にもたらす危機	
	3	人口：人口爆発や年齢階級別人口分布が歪むことがもたらす危機	
	4	自然環境：地震、洪水などが牙を向いたとき人類社会に発生する危機	
	5	安全保障：	

授業内容	6	GPP準備：発表にて用いるスライドとハンドアウトを点検、講評しながら発表にたえる品質をつくりこむ。
	7	GPP発表（その1）：2、3名で編成するグループで、5分程度で与えられたテーマについて発表する。
	8	8.GPP発表（その2）：第7回つづき。
	9	9.企業活動（その1）：企業が市民社会を構成する一要素であることを忘れたときに発生する危機
	10	企業活動（その2）：能力を欠く従業員が職場と企業、市民社会に対してもたらす危機
	11	企業活動（その3）：従業員が有する多彩な資質を活用し得ない企業が社会にもたらす危機
	12	GPP準備
	13	GPP発表（その3）：2、4名程度で編成するグループで、10分程度で与えられたテーマについて発表する。
	14	GPP発表（その4）：第13回つづき
	15	おわりに
	16	
キーワード		
教科書・教材・参考書	なし。教員が適宜作成・配布する。	
成績評価の方法・基準等	参加（30%）：欠席・早退せずに出席すること、質問にこたえること、議論に参加することを意味する。 発表（70%）：Group Presentation Projectにおける発表に関する、内容とスタイルを指す。	
受講要件（履修条件）	*毎回必ず遅刻せずに出席すること。 *自宅にインターネットに接続されたPCをもっていること。 *簡単な（TOEIC500点程度）英語が理解できること	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）	インターネット上にアップロードされた映像資料を、参照する。たとえば、 http://www.bbc.co.uk/news/world-asia-pacific-11649859 http://www.bbc.co.uk/news/world-asia-19462160 など。URLは、WebClass上にて適宜示す。	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-16 安全で安心できる社会**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587027701	科目番号	05870277
授業科目名	●安全で安心できる社会II(工学から見た安全安心(エネルギーと資源))		
編集担当教員	金丸 邦康		
授業担当教員名(科目責任者)	金丸 邦康		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	金丸 邦康, 山口 朝彦, 桃木 悟		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生(クラス等)	医学部、歯学部、工学部、環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	kkane@nagasaki-u.ac.jp, momoki@ // , tomo@ //		
担当教員研究室	工学部1号館3階 基礎エネルギー工学G研究室		
担当教員TEL	095-819-2532(金丸)/2528(桃木)/2531(山口)		
担当教員オフィスアワー	火曜：5校時（事前にe-mailで、予約するのが望ましい。）		
授業のねらい	東日本大震災後の日本のエネルギーのあり方を考えるために、日本のエネルギー事情、資源(食料、化石燃料、レアメタル、鉄など)の今後、国民生活とエネルギー需給、IPCCの報告書をめぐる環境問題の捉えかたを、安全の問題を踏まえてテーマとする。		
授業方法(学習指導法)	教員提示の資料や受講者が集めた資料などに基づき、講義を展開する。		
授業到達目標	日本と世界のエネルギーと資源の基本問題が説明できること。 自分なりの問題解決策の第1歩を提案できること。		
	回	内容	
	1	エネルギーとは： そもそもエネルギーとは何なのか、どのくらい重要なのかについて、それを“定量的”に議論する最低限の素養を身につけるための講義を行う。	
	2	エネルギーに関する歴史： 需要と供給について定量的に考え方を交えながら、エネルギー利用技術と社会の状況に関する歴史について講義する。	
	3	エネルギーの利用に関する2つの視点： エネルギーの変換や動力の生成等の供給側からの視点と、電力の需要や熱の需要といった利用者側からの視点について、講義する。	
	4	国内のエネルギー事情(1)： ここ数年の日本国内のエネルギー事情に関し講義する。	
	5	国内のエネルギー事情(2)： 日本機械学会動力エネルギー技術部門の動向を踏まえた最新の状況について講義する。	
	6	世界と日本の天然資源： 化石燃料を中心に分布とその移動を概観する。	
	7	最近注目される天然資源：	

授業内容		シェールガス、メタンハイドレイド、レアメタルに関する最近の情報を集め、議論する。
	8	食料資源と水資源： 人口問題と食料資源・水資源との関係を、国内および世界の問題として把握する。
	9	安定性の数学モデル： 人に安心感を与える自然現象の安定性とは、数学的モデルにおいてどのような特性があるのか？
	10	物質拡散の予測モデル： 有害物質の拡散現象を、どのように予測することができるのか？
	11	IPCC第4次評価報告の概要 Working Group I： 気候変動の概況と予測、およびその科学的根拠を講義する。
	12	IPCC第4次評価報告の概要 Working Group II： 気候変動の影響を講義する。
	13	IPCC第4次評価報告の概要 Working Group III： 気候変動の緩和策を議論する。
	14	IPCCの報告書をめぐる環境問題の捉えかた： IPCC評価報告書の社会への影響とさまざまな意見を議論する。
	15	持続的社会に向けての取り組み： 省エネルギー対策、再生可能エネルギーの開発、原子力の現状などを議論する。
	16	定期試験
キーワード	環境問題, 化石燃料, 原子力, エネルギーの質, 食料増産	
教科書・教材・参考書	担当教員が、適時資料を配布するか、 または、受講者各自にdownloadしてもらうURLを知らせる。	
成績評価の方法・基準等	毎回の講義出席を原則とし、定期試験（70%）,3回のレポート（30%）で総合評価する。	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ	全学モジュール（安全で安心できる社会）のモジュールII科目	
学習・教育目標	エネルギーと資源の問題に関し、現代的な基礎知識を獲得し、批判的思考ができる。自主的探究心、社会貢献的意欲、学問（歴史）を尊重する態度を身に付ける。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-16 安全で安心できる社会**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587028101	科目番号	05870281
授業科目名	●安全で安心できる社会II(公害環境問題と社会)		
編集担当教員	戸田 清		
授業担当教員名(科目責任者)	戸田 清		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	戸田 清		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生(クラス等)	医学、歯学、工学、環境 2年、3年、4年		
担当教員Eメールアドレス	toda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部 4階環404戸田教員室		
担当教員TEL	095-819-2726		
担当教員オフィスアワー	月曜16-17時		
授業のねらい	公害・環境問題を学際的に考察する諸理論を学ぶ。		
授業方法(学習指導法)	教科書、プリント、映像などを用いて授業を行なう。積極的な質問や発言を期待したい。		
授業到達目標	代表的な環境問題の概要を説明し、環境問題における企業、行政、専門家、市民の役割を説明できるようにすることを目指す。		
授業内容	具体的な事例を通じて環境問題への学際的なアプローチを学ぶ。15回目はまとめ、16回目は定期試験です。		
	回	内容	
	1	イントロダクション	
	2	水俣病その1 なぜ半世紀も混乱が続くのか	
	3	水俣病その2	
	4	カネミ油症その1 40年かかってわずかな前進	
	5	カネミ油症その2	
	6	じん肺と石綿 職業病から公害病へ	
	7	チェルノブイリ原発事故とリスク社会論	
	8	福島第一原発事故と受益圏、受苦圏	
	9	原発被曝労働	
	10	福島県三春町の苦悩とヨウ素剤配布	
	11	高レベル放射性廃棄物 10万年の憂鬱	
	12	女子割礼問題 人体という自然の尊厳	
13	戦争と環境破壊 ベトナム枯葉剤と劣化ウラン弾		

	14	遺伝子組み換え作物とグローバル経済
	15	まとめ
	16	定期試験
キーワード	水俣病、カネミ油症、原発事故、受益圏と受苦圏、リスク社会、オルタナティブ運動	
教科書・教材・参考書	教科書は戸田清『<核発電>を問う』法律文化社、2012年。参考書は適宜紹介する。プリント配布、映像資料の視聴を適宜行なう。	
成績評価の方法・基準等	定期試験（70％）、毎回の小レポート（30％）	
受講要件（履修条件）	受講要件は特にない。	
本科目の位置づけ	環境科学部の環境社会学Ⅰ、環境社会学Ⅱと内容の一部は重複するが、両方受けても得るところは多い。	
学習・教育目標	環境問題への学際的アプローチを学ぶ。	
備考（URL）	http://todakiyosi.web.fc2.com/	
備考（準備学習等）	教科書を通読する。	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-16 安全で安心できる社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587028903	科目番号	05870289
授業科目名	●安全で安心できる社会II(破壊事故とヒューマンファクタ)		
編集担当教員	勝田 順一		
授業担当教員名(科目責任者)	勝田 順一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝田 順一		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生(クラス等)	No.3 安全で安心できる社会		
担当教員Eメールアドレス	katsuta@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学部1号館5階 教官・ゼミ室504		
担当教員TEL	095-819-2599		
担当教員オフィスアワー	基本的には講義終了後講義室, またはmailで受け付ける。研究室に在室中は随時受け付ける。		
授業のねらい	<p>“ものづくり”は、建造するものが壊れないように、要求される性能を十分に発揮できるようにする必要があり、ところが、実際には、様々な“もの”が様々な原因で壊れ、時には悲惨な事故となることがある。</p> <p>講義では、様々な学部所属し、将来いろいろな分野に進む学生を対象に、“ものづくり”の成果や破壊事故の実情を講義とビデオにより紹介する。また、“もの”が壊れる条件についてわかりやすく説明する。</p> <p>さらに、近年、事故発生に人のミスが関わっていると多くの指摘がある。ヒューマン・エラーについて体験させ、人のミスを防ぐための安全確保策の考え方について紹介することを目的とする。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>講義は、パワーポイントによる座学での解説とビデオでの事例の視聴によって行う。自主学习としてレポートを課す。また、後半のヒューマン・ファクタの項目では、学生自身による体験を行う。</p> <p>講義中の受講態度や遅刻については、特に成績評価に反映させるので、真摯な態度での受講を求める。</p>		
授業到達目標	<p>この講義によって、実際の「ものづくり」に携わらなくても、新聞等での事故報道に対する理解が深まること、学生の身近な生活の中で利用可能なヒューマン・エラー対策の基礎的考察ができることを到達目標とする。</p>		
	<p>“ものづくり”の手順、“もの”が壊れる原因について講義した上で、破壊事故の事例をビデオで視聴する。</p> <p>事例によっては、講義室で簡単な実験で事故原因を体験する。</p> <p>事故には、個人の知識不足や不注意だけでなく、ヒューマン・ファクタや組織の原因が大きく影響することを理解するために、簡単なヒューマン・エラーを起こす体験を行う。</p> <p>これらのことによって、誰でもが、一生懸命やっても、優秀であっても、陥る可能性があるミスについて、実態と対策を考える。</p>		

授業内容	<p>第 1 回 講義の概論, 講義の目的, "ものづくり"の成果 第 2 回 "ものづくり"の成果と破壊事故分析 第 3 回 力に対する材料の限界, 破壊とは 第 4 回 最近の事故例における発生の背景 第 5 回 事故例と事故分析 第 6 回 工学的安全システムの有効・無効 第 7 回 "ものづくり"における『安全』とは 第 8 回 "ものづくり"における安心と市民の『安心』とは 第 9 回 技術者の責任と市民の責任 第 10 回 人が犯すミスとその背景, および体験 第 11 回 想定される失敗と想定されない失敗, および体験 第 12 回 思い込みと錯覚による安全喪失 第 13 回 外部情報と脳の受容情報 第 14 回 人の理解と脳の理解, その行動 第 15 回 安心文化の醸成のためには</p>
キーワード	破壊事故, 医療事故, 組織事故, 安心・安全, ヒューマン・ファクタ, 脳科学, 認知科学
教科書・教材・参考書	教科書は用いず, 教員作成の講義資料 (プロジェクト), ビデオ, 配布資料, 実験資料によって行う。 必要に応じて, 参考文献を講義中に紹介する。
成績評価の方法・基準等	提示されたテーマに対する自身で考えたことを主とするレポートのみによって100%評価する。定期試験は実施しない。未提出の課題やレポートがある場合は, 不合格とする。課題レポートでは, 自分自身の多面的な考察, 意見, 感想のみを評価し, 講義内容を記した部分は評価対象外とする。レポートでの得点で合格に達した者については, 受講態度や自主学習を考慮して, 成績を報告する。
受講要件 (履修条件)	欠席は認めず, 全回出席を原則とする。やむを得ない理由がある場合のみ, 個別指導を行う。なお, 高等学校までの物理学の受講の有無は問わない。 受講学生数は, 最大50名とする。
本科目の位置づけ	一般教養科目として, 自然科学分野の知識を身に付け, 様々な状況や立場での自身の行動を創造的に考える能力を養成するための科目である。
学習・教育目標	一般教養科目として, 自然科学分野の知識を身に付け, 様々な状況や立場での自身の行動を創造的に考える能力を養成する。
備考 (URL)	
備考 (準備学習等)	準備は必要ないが, 講義後のレポート作成に重点をおくことを求める。

